

(一財) 自治体国際化協会 ロンドン事務所 マンスリートピック (2016 年 1 月)

【英国のロンドン以外の地域への観光客誘致計画を政府が発表 ～ 政府による観光産業支援事業の調整を行う大臣のグループ設置など】

要旨

・文化・メディア・スポーツ省は、2015 年 7 月、英国のロンドン以外の地域への観光客誘致計画を発表した。「スキルと雇用」、「交通」など 5 項目から成り、政府による観光産業支援事業の調整を行う大臣のグループを設置するなどの計画を掲げている。

・また、英国政府観光庁は 2016 年 1 月、政府が昨年、観光振興への追加投資を表明したことを受け、新しい戦略方針と組織再編を発表した。海外市場への英国のプロモーション事業を行う「ビジットブリテン」と、イングランドの観光振興を行う「ビジットイングランド」を別々のブランドとして存続させつつ、英国政府観光庁に属する一つの事業として統合するなどの方針を打ち出している。

・政府は昨年より、さらなる中国人観光客の獲得を目指し、一定の条件を満たした中国人観光客にビザ発行手数料を返還するパイロットスキームを実施している。英国政府観光庁の統計によると、2015 年第 1～3 四半期、中国からの英国への訪問数は飛躍的に増えた。

文化・メディア・スポーツ省 (Department for Culture, Media and Sport, DCMS) は、2015 年 7 月、ロンドン以外の英国の地域への観光客誘致計画として、「観光産業の支援 – 5 ポイント計画 (Backing the Tourism Sector – A Five Point Plan)」¹を発表した。同文書は冒頭で、世界的な傾向に合わせ、英国でも近年、観光業が大きな成長を遂げており、外国人観光客が英国の旅行業界に生み出す総価値は、2003 年の 139 億ポンドから、2013 年には 262 億ポンドに増えたことを紹介している。さらに、英国における雇用の約 10%は観光業に関係したものであり、観光業における雇用の伸び率は、他の産業のおよそ 2 倍であるとのデータを取り上げている。しかし同時に、外国人観光客による英国での消費額の半分以上 (54%) はロンドンで使われているという事実も指摘した。そのうえで、ロンドン外の地域への訪問を奨励し、観光業の成長による恩恵を英国全土に広げたるための 5 ポイント計画を掲げている。下記は、その主な内容である。

¹https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/446167/Tourism_-_A_Five_Point_Plan.pdf

1. 政府による観光振興事業の状況 (Tourism landscape)

・政府による観光産業の支援事業の調整を目的として、政府の関係各省の大臣をメンバーとするグループを設置する。議長は文化・メディア・スポーツ大臣が務め、国・地域レベルのパートナー組織もグループに協力する。グループの役割は、政府の省またはその他の公共部門の組織による観光業に影響を与える決定が、首尾一貫しており、ロンドン外の地域での観光振興という政府の目標に沿っているよう確保することである。

・英国政府観光庁とイングランド観光局の役割を明確化する。英国政府観光庁は海外で英国をプロモーションすることに、イングランド観光局はイングランドのロンドン外の地域における観光の質向上に注力する。

・ウェールズ政府、スコットランド政府及びそれが適切な場合は北アイルランド政府と密接に協力し、各地域の観光当局間の連携を強化すると共に、英国の全ての地域での外国人観光客増加に向けた適切な目標を設定する。

2. スキルと雇用 (Skills and jobs)

・英国の全ての地域の観光業者が、彼らが必要とする支援と情報に迅速かつ簡単にアクセスできるようにする。政府は既に、特に小規模企業を対象に、観光業者向けの様々な支援を実施しているが、これら支援の周知や調整に関してはさらなる改善が必要である。我々は、今後、この点について、観光業者及びイングランド観光局と連携を続ける。

・政府の職業訓練プログラムであるアプレントイスシップ (apprenticeships)²が、観光業界に固有のニーズにより良く応えることができる方法を引き続き探る。観光業は、季節性が高い産業であるため、アプレントイスシップ・プログラムへの参加者確保に困難があることが報告されている。我々は、観光業界で質の高いアプレントイスシップ・プログラムがより多く提供されるよう尽力する。

・「低賃金で季節性労働」という観光業界の仕事にまつわるネガティブなイメージを払しょくし、この業界が、高い能力を持った優秀な人材を獲得できるよう尽力する。

² アプレントイスシップとは、政府が実施している職業訓練プログラムで、少額の給与を得て働きながら、見習いとして職業技術を学ぶ。

3. 妥当な規制 (Common Sense Regulation)

・「新興産業アクショングループ (Emerging Industry Action Group)」³及び政府のプログラム「カッティング・レッド・テープ (Cutting Red Tape)」⁴という2つの機会を使って、不必要または企業にとって負担の大きい規制を緩和する方法を提案するよう企業に奨励する。規制がどのように執行されているか、またどのように企業に周知されているかについて調査し、もはや目的に適っていない規制は、撤廃または改正する。

・前政権（保守党と自由民主党の連立政権）が発表した「シェアリング・エコノミー (sharing economy)」に関する独立の調査は、シェアリング・エコノミーの関連企業への規制を適切なレベルに留めるよう強く提案していた。我々は、観光業界と協力し、（観光業界に関係する）シェアリング・エコノミーの関連企業への規制が、適切で、可能な限り軽いものとなるよう尽力する。

4. 交通 (Transport)

・英国の鉄道、空路、道路の輸送能力を拡大するプロジェクトを支援し、こうしたプロジェクトを計画する際、観光客のニーズを考慮する。英国の空港処理能力を拡大する方法について検討していた独立の委員会「デービス委員会」は、既に調査結果を発表しており、政府は、この件に関する最終決定を可能な限り早く行い、ビジター・エコノミー⁵を支援する。

・我々は、政府のパートナー組織⁶及び観光業界と協力し、ロンドン以外の地域への訪問を奨励・支援するスキームやインフラの整備を促進する。我々は、地方の空港から鉄道に乗り換えてさらに遠くの目的地を訪れることができることが、観光客がロンドン外に旅行するための重要な点であることを認識しており、鉄道運行会社は、情報提供などによって、外国人観光客に対し、上手な鉄道の利用方法を奨励するという役割を担っている。

³ いわゆる「シェアリング・エコノミー」が英国の市場で成長することを阻害する要因を見極めることなどを役割として2015年7月に政府が立ち上げたグループ。シェアリング・エコノミーの関連企業及び関係する政府の省の代表者をメンバーとする。

⁴ 政府のプログラム「カッティング・レッド・テープ」の詳細はウェブサイトを参照のこと。
<https://cutting-red-tape.cabinetoffice.gov.uk/>

⁵ 「visitor economy (ビジター・エコノミー)」とは、観光のみならず、ビジネス目的の滞在や親類や友人の訪問など、あらゆる形態の訪問によって形成される市場を指して使われる言葉である。

⁶ 文化・メディア・スポーツ省以外の省などを意味する。

・鉄道運行会社は、観光客がどのように英国の交通ネットワークを使って移動しているかについて積極的に検証すべきであり、我々は、彼らと協力して、観光客による鉄道サービスの利用方法の改善策を検討したい。例えば、鉄道運行会社と協力し、地方の空港から鉄道に乗り換えて移動する旅をプロモーションすること、ブリットレイル・パスのような観光客向けのスキームについて新しい視点で検討することなどが考えられる。

5. グレートな歓迎 (A GREAT Welcome)

・観光ビザ制度について、長期的かつ戦略的なアプローチを取り、移民制度の悪用から英国を守る強固な移民制度を維持すると同時に、人々がより簡単に英国への旅行と休暇を楽しめるようにする。我々は、費用、サービスの改善、国の安全といった点においてバランスの取れた、合理的で改善されたビザ制度が必要であると考えている。

・英国が外国人観光客を引きつける理由、その理由に鑑みて英国のビザ制度が適切であるかどうかを探る。8日以上ツアーに参加して英国を訪れる中国人観光客に対し、英国政府がビザ発行手数料を払い戻すという革新的な新しいスキーム⁷の効果を評価する。このスキームでは、英国滞在中、4日以上をロンドン外で過ごすことがビザ発行手数料払い戻しの条件となっている。これは、英国がいかにして、成長を続ける中国人観光市場からさらに多くの観光客を誘致することができるか、そして、観光業の経済的恩恵を英国全土に広げることができるかを見極めるためのパイロットスキームである。

英国政府観光庁が新しい戦略方針と組織再編を発表

観光政策に関連するこのほかの最近の動きとしては、英国政府観光庁が2016年1月、さらなる観光振興に向けた新しい戦略方針と組織再編を発表したことがある⁸。これは、2015年11月に政府が発表した「2015年支出見直し・秋季財政報告書 (Spending Review and Autumn Statement 2015)」で、イングランドの観光活性化を目的とする4000万ポンド規模の「ディスカバー・イングランド・ファンド (Discover England Fund)」の設置や、政府の観光・投資誘致プロモーション「GREATキャンペーン」への追加資金拠出など、観光振興へのさらなる投資が明らかにされたことを受けたものである。

英国政府観光庁によると、今回発表した戦略方針の目的は、同庁とイングランド観光局による観光キャンペーンの焦点を定め、足並みをそろえることである。この目的のため、資金の再配分と人員の再配置を行い、効率性を高め、実際の観光振興業務 (front-line

⁷ 2015年6月より段階的に実施。特定のツアー業者が開催するツアーの参加者のみを対象とする。

⁸ http://media.visitbritain.com/?service=feature&action=show_content_page&language=en&feature=11614

activities) に投資する。

さらに、同庁によると、「2015 年支出見直し」で発表された観光振興への投資拡大のほか、今回の新たな戦略方針の策定と組織再編を後押しした要因には、旅行者の旅行の予約方法やメディアの消費の仕方が変化していること、イングランド観光局が注力すべき事業が変わってきていること、同庁とイングランド観光局がより密接に連携するよう政府が要請したことなどがある。

新たな戦略方針の主な内容は、下記の通りである。

- ・「ビジットブリテン (VisitBritain)」と「ビジットイングランド (VisitEngland)」⁹を、独自の予算を持つ別々のブランドとして存続させつつ、英国政府観光庁に属する一つの事業として統合する。両者は、資源（資金と人材）及びサービスを共有し、実際の観光振興業務も、職員を共有して提供する。イングランドの観光振興業務と英国の海外市場へのプロモーション業務について、それぞれ専任の局長（director）を置く。同時に、英国とイングランドの業務の両方を統括する最高責任者（CEO）などを置く。

- ・英国政府観光庁の国際的なネットワークは、観光産業にとっても、英国の地方や地域にとっても貴重な財産であるとみなされており、海外の消費者や市場に関する深い理解を与えてくれる。英国政府観光庁は、このネットワークにさらに投資し、4つの統合されたハブ（hub）に組織を再編する。4つのハブにはそれぞれ、より広い範囲の市場に配置できる中枢チーム（central team）を置く。ハブにはさらに、より経験豊かな人員が雇用され、パートナーシップや対市民外交（public diplomacy）といった重要な分野を担当する。

- ・イングランド観光局は、イングランドの観光商品の開発に資金を提供する「ディスカバー・イングランド・ファンド」の設置と実施に注力し、イングランドの地域に関連する予約可能な観光商品が海外の市場で販売されるよう確保する。

- ・デジタル技術の活用をマーケティングの核に据え、イングランドと英国のPRを目的とするデジタルコンテンツの制作、キュレーション、提供に注力する。

⁹ 海外市場への英国のプロモーション事業を行う機関の法律上の名称は「British Tourist Authority（本報告書では「英国政府観光庁」と訳している）」であるが、「VisitBritain（ビジットブリテン）」とのブランド名を使用して事業を行っている。同様に、イングランド観光局（English Tourist Board）は、「VisitEngland（ビジットイングランド）」をブランド名として使用している。

英国政府観光庁によると、組織再編の最終的な決定は、2016年2～3月に行われる見込みである。

中国からの英国への訪問は2015年1～9月に約4割増

上で、政府の観光戦略が、中国人観光客にビザ発行手数料を返還するパイロットスキームについて触れていたことを紹介したが、英国政府観光庁が最近発表した統計で、2015年に、中国からの英国への訪問が大幅に増えたことが分かった¹⁰。同庁が2016年1月に明らかにしたところによると、2015年1～9月（第1～3四半期）の中国からの英国への訪問件数は、過去最大の37%増（前年同期比）を記録し、21万4000件に上った。これは、2014年通年の中国からの英国への訪問件数を上回る。2015年1～9月における中国からの訪問者による英国での消費額は、前年同期比4%増の4億3500万ポンドに上った。

ほかに、2015年1～9月に英国への訪問が増えた国は、アラブ首長国連邦、カナダ、インド、米国、ドイツなどであった。英国政府観光庁は、2016年も、海外からの英国への訪問が増えると予想しており、前年比3.8%増の3670万件に達すると見込んでいる。このペースで海外からの訪問が増えれば、2015年から2020年までに海外からの訪問件数を20%以上増やし、4200万件にするとの英国政府観光庁の目標を達成できる見込みである。

なお、英国政府観光庁は、2016年1月、「GREATキャンペーン」の一環として、「GREATなブリテン ～ 素晴らしい瞬間が起こる場所（GREAT Britain - Home of Amazing Moments）」とのスローガンを掲げた大規模な海外市場向けキャンペーンを立ち上げた¹¹。これは、ソーシャルメディアを使ったキャンペーンで、主にブラジル、中国、フランス、ドイツ、米国をターゲットにしている。

¹⁰http://media.visitbritain.com/?service=feature&action=show_content_page&language=en&feature=1632

¹¹ <https://www.visitbritain.org/great-britain-home-amazing-moments-campaign>